



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	佐藤昌介「植民論」講義ノート：植民学と札幌農学校
Author(s)	井上, 勝生
Citation	北海道大學文學部紀要, 46(3), 1-39
Issue Date	1998-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33705
Type	departmental bulletin paper
File Information	46(3)_PL1-39.pdf



佐藤昌介「植民論」講義ノート

— 植民学と札幌農学校 —

井 上 勝 生

はじめに

札幌農学校校長、佐藤昌介の1900年前後の「殖民論」講義ノート（本稿のタイトルでは現在、一般的な「植民論」を使用した）の全文を紹介し、若干の解説を加えたい。

札幌農学校では、「殖民策」、「殖民史」、「殖民論」という授業科目が講義されていた。その後、東北帝国大学農科大学に改組する際に、1907年6月の勅令・第240号「東北帝国大学農科大学講座ノ種類及其ノ数」によって「農政学殖民学講座」が設けられる。日本最初の植民学の講座である。

「殖民策」、「殖民史」、「殖民論」を一括して、現在の一般的な呼び方にしたがって「植民学」ということにする。札幌農学校では、佐藤昌介と新渡戸稲造、高岡熊雄が植民学の講義を担当していた。田中慎一が指摘したように、佐藤昌介は、1890年度、1893年度、そして1896年度から1904年度まで、新渡戸稲造は、1894年度、1895年度に、高岡熊雄は、1905年度、1906年度に植民学の講義を担当した。佐藤昌介が、植民学の講義の大半を受け持っていたのである（田中慎一「植民学の成立」、『北大百年史 通史』、581～602頁、1982、北海道大学）。佐藤昌介は、札幌農学校の第一期生で、アメリカに留学し、ジョンス・ホプキンス大学に学んで、1886年に帰国し、札幌農学校の教授になる。1891年に札幌農学校長事務取扱に、1894年に同校長に就き、以後、東北帝国大学農科大学学長、北海道帝国大学学長を歴任し、学校と大学の長

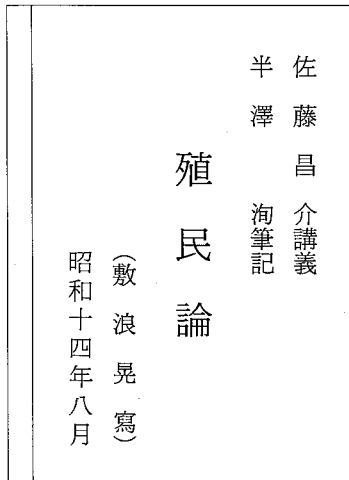
を務めること 39 年に及んだ。

札幌農学校の植民学では、札幌農学校第 1 期生で校長の佐藤昌介の方が、第 2 期生の新渡戸稲造より先達であり、中心的な役割を担っていた。ただし、その後の植民学の歴史としては、新渡戸稲造の方が知られている。新渡戸は、1906 年 9 月に東京帝国大学農科大学教授に就いて、「拓殖政策」の講義を担当し、1909 年に新渡戸を引立てた児玉源太郎を記念する故児玉源太郎記念寄付金で新設された「植民政策講座」の初代教授となった。新渡戸の東京帝国大学での講義は、『新渡戸博士植民政策講義及論文集』として、矢内原忠雄によってまとめられている（同書、1943 年、岩波書店）。

佐藤昌介の札幌農学校での植民学は、新渡戸の植民学の前史となるものである。

佐藤の植民学の講義ノートは、田中慎一が指摘しているように、現在、2 種類が、農学部に残されている（田中、同上）。1890 年の「殖民史」と 1896 年の「殖民論」の講義の原稿である。一つは、二つの表紙・表題を持つもので、初めの表紙には「明治廿九年九月 殖民論講義原稿」とあり、次の表紙には「明治廿四年一月（1891）於札幌 殖民史講義」とある。

いま一つは、本稿で紹介する次のような表題の講義ノートである。



表題は1頁目に記されており、ノート外表紙の後年に書かれた墨書には「半沢洵氏筆記（明治三四年?）」という記入がある。

半沢洵は、農学校の19期生で、1901年7月の卒業生である。同期には、星野勇三、森本厚吉、有島武郎、佐藤政次郎らがいる。

半沢らの在校当時の『札幌農学校一覧』によれば、殖民論の講義は3学年（当時は「第3年級」と記していた）にたいして実施することになっている。『札幌農学校一覧』の「自明治三十三年，至明治三十四年」の「学課」の3年生の講義には、殖民論は、特有作物論（通年），園芸論（通年），畜産学（第2・3学期），家畜生理学及衛生学（第2学期），家畜飼養論（第2・3学期），養蚕論（第2・3学期），農業経済学（通年），殖民論（第1学期），森林学大意（第2・3学期），水産学大意（第1学期），細菌学（第1学期）のなかに記されており，第1学期に週3時間を実施することになっている（北海道大学附属図書館北方資料室所蔵『札幌農学校一覧』）。しかし，19期生の「札幌農学校本科成績表」によれば，実際には，殖民論の講義は，4学年にたいして，第1学期に行なわれていた（同室所蔵「札幌農学校本科成績表」）。同じ『札幌農学校一覧』によれば，4学年にたいして予定されている講義科目は，畜産学（通年），獣医学大意（通年），農産製造論（第1・2学期），農政学（通年）である。「札幌農学校本科成績表」では，実際の4学年の講義科目は，普通作物論（第1学期），畜産学（通年），獣医学（通年），農政学（通年），殖民史（第1学期）が実施された。

半沢洵の4学年の第1学期は，1900年の9月から12月にあたる。上の表紙は，敷浪晃の筆写以後に付けられたものであり，「半沢洵氏筆記（明治三四年?）」という疑問符を付けられた記載は，「明治三三年」の誤りである。「殖民論」という課目名も「札幌農学校本科成績表」では，「殖民史」であったと思われる。

この講義ノートは，1900年の佐藤昌介の「殖民論」の講義内容を示すものである。田中慎一によれば，日本における植民学の嚆矢は，1890年度の佐藤昌介の「殖民史」である（田中，同上）。その10年後の講義で，日清戦争の5年後，日露戦争の4年前にあたり，東京帝国大学での新渡戸稲造の植民学

へと続く、日本の植民学の初期の歴史史料として、1900年の佐藤昌介「殖民論」講義ノートを以下に復刻し、紹介する。

「殖民論」講義ノートは、縦26.3センチ、横19.4センチのノートで、B5サイズよりやや横長のノートに、横書きで、ペンによって記されている。ノートの規格は、1頁30行である。記入は、24頁で完了しており、最後に「完」と記される。英文などのごく一部がタイプによって記入されている。

筆記者の半沢洵は、のちに札幌農学校の教官に就いて、応用菌学の教授になる。1900年の「殖民論」の「札幌農学校本科成績表」の「本科第四年級第一学期試験成績表（明治三十三年十二月）」によれば、「殖民論」では同級生34名のなかで最高点（90点・5名同点、因みに星野勇三は最高点、佐藤政次郎は84点、森本厚吉は85点、有島武郎は、学年成績は11位であるが、殖民史は、最高点）を取得している。半沢の講義ノートは、信頼の置けるものと見てよいであろう。なお、当時の授業は、1回の授業は60分で、第1学期の授業は9月11日に始まり、12月24日に終わった。秋季皇霊祭など4日の休業日があるが、「殖民論」の授業も15週、前述のように週当たり3時間であったから、第1学期に計約45時間が行なわれたと推測される（『札幌農学校一覧 自明治三十三年至三十四年』など）。

1

1900年9月から12月にかけて札幌農学校で4年生にたいして講義された佐藤昌介の「殖民論」講義ノートを復刻するにあたって、「殖民論」講義ノートの歴史的な位置や問題点の若干について述べておきたい。

佐藤昌介の殖民論は、1900年の頃を境として変化した。1900年以前には、内国植民を主張し、海外植民を批判していたが、以後、海外植民を否定せず、むしろ積極的に推進する議論を展開する。佐藤昌介の殖民論の、内国植民論から海外植民論への転換である（『古河講堂「旧標本庫」人骨問題報告書」Ⅳ

の〔4〕札幌農学校と植民学，4 佐藤昌介・新渡戸稲造の植民学，北海道大学文学部，1997.7 参照）。

日本農業の性格は、「アイルランド以下」の「過小農」という評価をしていた佐藤昌介は、植民政策の展開を盛んに唱えていたが、植民は、もっぱら北海道へ向かうべきだと論じ、海外へと植民が向かうことを一貫して批判していた。たとえば、次のような議論である。

吾人既に北海道は農家将来の楽土なるを知る、雖然、府県農民多くは北海道に於て農業を営むの資財に乏しきを以て其楽土に入る能はず……則ち北海道の殖民は本邦過小農の弊を矯め、以て本邦農業の改良を來たすに於て実に密接の關係を有するは勿論なりとす……農業を改良するの道は、外国殖民に在らすして、内国殖民即ち北海道殖民にありとす、嗚呼、世の農業改良を論するの士、豈に之を察せざるべけんや（『日本農業の改良と北海道殖民との關係』、『殖民雜誌』第2号，4～5頁，1889年8月）

「農業を改良するの道は、外国殖民に在らす」と、海外植民を否定する意見を述べていた。やがて、1900年以後は、海外植民を積極的に主張するようになる。とりわけ滿韓を中心とする海外への農業植民の主張であった。たとえば、日露戦争中の次のような主張である。

（三）殖民政策 第三は殖民を盛にして過剰の人口を海外に移すやうにせねばならぬ、殖民事業は必ずしも国の政治權と相伴ふものでない、又殖民すべき地の文明の優劣如何を問ふ必要はないのである、滿韓地方が我殖民事業の勢力範圍たるべきは云ふまでもない、或は豪州に、或は南北米國に、或は阿弗利加に、盛んに我国人の殖民をなし、農牧の事業を起し、商工業を営み、其の地方々々に我國民の勢力を確立するやうにせねばならぬ、殖民の頭数を多くし、多数を以て、其の地方々々の人に打ち勝つやうにせねばならぬ、余は必ずしも出稼移住のみを奨励するものではない、時に或は国籍を移さねば都合の悪いこともあろう、さる場合には断然、其の地方

に帰化し、其の地方の実益と一致するが寧ろ必要である、斯る手段はこれを臨機応変の所置に委ねてよい、兎に角も渾円球上到的所に我大和民族の殖民地を開くことは我国権拡張の根底を作る所以なるは云ふまでもなく、実に我国の富力増進せしむるに於て、莫大の効果があるものである……これに成功せざるものは其国富を増すを得ずして、世界の劣敗者とならん、我国若し国力を充実して、世界列強の班に入らんとならば、我國民たるもの、戦後の経済政策として、真面目に熱心に殖民政策に力を入れねばならぬ。（「戦後の経済政策」、『北海タイムス』1905年1月1日）

「満韓地方が我殖民事業の勢力範囲たるべきは云ふまでもない」と主張されているのは、日露戦争中である点からも重視されるであろう。ただし、佐藤昌介は、これを「国の政治権」の拡張とパラレルの関係にあるものではない、としていた。佐藤昌介の農業植民論、すなわち人口過剰、土地の過小から植民の必然を主張する議論の特質である。この点は、「殖民論」講義ノートでも相当に意識的に配慮されている。しかし一方では、政治的植民の議論を避けつつも、「渾円球上到的所に我大和民族の殖民地を開くことは我国権拡張の根底を作る所以なるは云ふまでもなく、実に我国の富力増進せしむるに於て、莫大の効果があるものである」とか「世界列強の班に入る」と国権拡張の議論へと繋がる植民の主張が、世界規模の問題として提起されている。ここに農業植民の展開、経済的富国の確立、国権拡張という回路が主張されている。農業植民自体は、政治的植民政策にあらずという佐藤昌介の農業植民弁護である。

日清・日露の戦間期、1900年に講義された佐藤昌介「殖民論」講義ノートは、内国植民から出発しつつ、それを前提として、海外植民に転換してゆく「殖民論」の特質を示している。この講義ノートでは、

5、人口ノ平均

1、國內ニ於ル地方的人口ノ粗密ヲ平均セシムル結果アリ。populationノcentreハ必ズ或地方ニ於テ之レヲ占ム。殖民事業ノ起ルニ從テ其中心ハ

移動ス。米国ノ発達ハ人口ノ中心ヲシテ西漸セシム。(chicago ヨリ以西トナル)之ヲ我国ノ人口ノ配置ニ考フルトキハ東北及北海道ハ人口甚ダ稀粗ニシテ畿内中国及ビ九州ハ人口ハ甚ダ密ナルモノナリ。我国人口ノ移動ハ漸次東漸スルモノト見テ差支ヘナシ。

のような部分に内国植民論の論理が、人口論として踏まえられている。「我国人口ノ移動ハ漸次東漸スル」という。一方では、

18世紀ノ終末ニ到リテ東洋即チ絶東ハ国際間政治ノ活舞台ニシテ権力競争ノ焼? (焦) 点トナリタリ。露国ノ西比利亜ノ殖民, Siberia, 満州及ビ東清鉄道ノ敷設, 及ビ清国門戸解放問題ハ欧洲ノ政治問題ヲ東洋ニ移スノ動機トナリヌ。

遂ニ資本ト人口ト兵力トヲ東洋ニ植ウルノ基トナリヌ。或意味ニ於ケル殖民問題ト称ス可キナリ。

という所などに海外植民論への転換の歴史的背景の一端を見ることが出来る。東洋における国際政治, 権力競争, そして「殖民問題」の発生と考察している。

人口過剰論から農業植民を中心に「植民論」を構成するのが佐藤昌介の植民論の第二の特色である。「殖民原因」の第一に「社会的原因」として、人口と土地との関連が論じられている。「蓋シ其本ハ人口ノ過剰ノ蕃殖ニアルモノニシテ殖民ハ其自然ノ結果ト云ハザルベカラズ」という植民は「自然ノ結果」という主張である。一見、素朴な主張のように見えるが、人口問題を抱えたあらゆる民族・国家がこのような植民を實踐できるわけではないことが自明であろう。国民国家時代の「植民」は、植民する民族・国家と植民をされる民族・国家（そこにおいてももちろん人口は増加している）があつて初めて構成可能になる。佐藤は、「植民論」講義ノートのなかで、「農業殖民地ハ殖民地中尤モ重要ナルモノニシテ此種ノ殖民地ハ発達シテ逆ニ州トナリ國トナル未開ノ地ニ行ハル、處ナリ。此土地ハ開闢以来或ヒハ僅カニ野蛮人ノ往来

スル所トナルニ不過ルアリ」(第二章)という。佐藤が、日本の農業植民地の中心として想定した満韓が「未開ノ地」であったか、また「僅カニ野蛮人ノ往来スル所」であったか否かであろう。農業植民が「征略殖民地ニ於ルコトキ人種ノ衝突権力ノ争奪ハ甚タシカラズ」と評価し得るか、これも問題をはらんでいる。満韓は、その後、佐藤昌介や新渡戸稲造によって事実、「未開」そのものの地域と評価されるようになる(佐藤「鮮満旅行土産(上)、『北海タイムス』大正2年9月13日、2面、新渡戸「亡国」,「枯死国朝鮮」,『新渡戸稲造全集』第5巻,『古河講堂「旧標本庫」人骨問題報告書』Ⅳの〔4〕の4佐藤昌介・新渡戸稲造の植民学)。

「殖民論」講義ノートの冒頭で、佐藤昌介は、Lewisの定義を引用している。Lewisの定義の最後に「expel the ancient inhabitants」という先住民族の追放の問題が出てくる。講義ノートで先住民族問題が言及されていないわけではない。たとえば、第一章の「政治上ノ原因」の所で、「優等ノ種族ハ劣等種族ヲ征服シテ殆ント之ヲ奴隷トナシ或ヒハ之ヲ域外ニ expel シ新タニ植民地ヲ建設スル」と指摘している。しかし、このような政治によって構築される植民地について、「国ノ権力ヲ擴張シテ土地ノ征服ヲ目的トスルモノナリ。其結果ハ遂ニ學術上ニ於ケル植民地ヨリハ寧ろ属邦及ビ征服地ヲ称スルコトナリ」として、学問としての「殖民論」から政治と軍事力による植民地問題を考察対象の外とする。これが、学問としての佐藤の「殖民論」が、当時の植民地問題の核心である政治(植民地支配)や先住民の問題を隔離してしまう原因になることはいうまでもないが、「學術上ニ於ケル植民地」と規定された「植民論」には、日本の知識人の思想史として重要な課題があるであろう。「属邦及ビ征服地」の問題を植民論から排除してしまったのである。こうして純粋学問としての「植民論」が構成される。佐藤昌介は、日本が実践していた植民を「平和の発展策にして侵略主義にあらず」と弁護していたから、このような「学問としての植民論」への文脈も、多分に意識化されたものであったと思われる(「農政上に欠けたる要素」,『農業世界』2の13,4頁,1907年11月,佐藤の植民政策弁護については『報告書』Ⅳの〔4〕参照)。

この「殖民論」講義ノートの第一章で「植民事業ト政治問題」が論じられているが、それは、実は植民地獲得をめぐる欧米諸国のあいだの「政治問題」に、つまり植民地支配国相互の問題に限定されおり、植民地支配国と被支配国、あるいは植民地支配国と先住民族のあいだの政治問題ではない。佐藤昌介の「殖民論」講義ノートの第三の問題に、先住民族問題が考察されないこと、政治と軍事による植民地支配の実情が、まったく考察されないところが挙げられる。

こうした政治の現実としての植民学に踏み込み、政治的植民を現実政治の立場から、現実肯定的に論述したのが新渡戸稲造であった（『報告書』Ⅳの〔4〕参照）。

第四の問題点として、佐藤昌介の植民事業の賛美が注目される。たとえば、植民は、「国ノ尤モ強キ時、国民ノ元氣旺盛ナル時」に起こる（第一章、殖民ノ時機）。植民は「新思想」、「新知識」を集め（同、植民事業ノ結果、新知識ノ獲取）、「文明ノ事実ノ拡張ナリ」、「未開ヲ導テ人道ノ域ニ進マシムル」（同、同胞主義ノ拡張）ことになる、という。当時の欧米の「文明」思想が、第三世界を「未開」とし、「未開」にたいする「文明化」を一方向的に賛美するものであったことは、最近の「オリエンタリズム」論でとくに系統的に議論されている（E. W. サイド『オリエンタリズム』1978、平凡社ライブラリー、今沢紀子訳、1993）が、従来からも指摘されていることである。もともと18世紀以来の近代国際法がこのような「文明」と「未開」の枠組みを確定していたのであり、現代国際法の民族自決権原則は、こうした枠組みにたいする批判のなかから生まれたのである。佐藤昌介は、こうした欧米の近代の「文明」と「未開」の枠組み、そして「未開」にたいする「文明化」の思想を受容しているわけである。あるいは、「未開」にたいする「文明化」の思想を、日本・アジアの世界として再構成したといえる。

「冒険」や「冒険者」を植民の原因の「第5」として挙げている点も注目される。植民地では「一世一代ニシテ巨万ノ富ヲ作ル」ことができる、「危険ノ性質ヲ若干帯ブルモノナリ。危険ヲ犯サレバ希望ヲ現出スル事不能。需要

供給ノ大勢ヲ察シ事業上ノ資本ヲ注入シ近キ将来ニ於テ其事業ヨリ報酬ヲ得ントスルコトヲ希望スルコトハ必ズシモ之レヲ投機的事業ト称スベカラズ」などという植民者についての、ある種の「冒険」イデオロギーの形成を指摘することができる。同時代の「植民学」の負の性格を端的に示していよう。

二

『古河講堂「旧標本庫」人骨問題報告書』のⅣ「東学農民軍指導者と推定される頭骨について 頭骨の背景事情」の〔4〕「札幌農学校と植民学」において、珍島で処刑された東学農民軍指導者の遺骨を採集したという文書をのこした佐藤政次郎という人物が、1901年7月に札幌農学校を卒業し、1904年7月に日露戦争に応召し、1906年3月に釧路港から横浜へ向かい、5月に韓国統監府勸業模範場技手に任命され、6月に東京から出発して韓国京城（ソウル）に着き、木浦の勸業模範場に着任した人物にほとんど間違いなことを述べた。この佐藤政次郎は、札幌農学校の校長、佐藤昌介と親交があり、佐藤昌介が、佐藤政次郎の韓国渡航前後にも交信していることを、『報告書』において佐藤昌介校長の日記類の調査で指摘した。

佐藤昌介校長は、1905年12月7日に釧路の佐藤政次郎に書翰を発信する。3月21日には渡韓のために東京へ着いた佐藤政次郎に、また書翰を発信する。東京の一時的な佐藤政次郎の住所も記している。佐藤政次郎が韓国についたあと、佐藤昌介校長は、6月27日にまたも佐藤政次郎へ当てて書翰を送った。佐藤昌介校長は、農商務省の植民地官僚に人脈のあった新渡戸稲造などと連絡して植民地へ卒業生を送り出していたのであるが、『報告書』で、佐藤政次郎の韓国統監府の勸業模範場への就職を佐藤昌介が知っていたことが確実であると指摘した（『報告書』〔4〕）。その後、以下のような事実が判明し、佐藤昌介校長と、卒業生佐藤政次郎の連絡が一層、明らかにしたので補記しておく。

佐藤政次郎が成績優秀な学生であったことは、前述した。当時、札幌農学校では「校費生」と「特待生」の制度があったが、佐藤政次郎は、4年生の

際に特に「校費生」に選ばれた（3年生の時は、佐藤政次郎は特待生であった）。すなわち、校費生は、星野勇三（農甲）、佐藤政次郎（農乙）（乙は、牧畜……註記）、半沢洵（植）ら5名で、特待生は、有島武郎ら4名であった。特待生は、授業料免除だけであるが、「校費生」については、授業料免除の上、学費として「月額金七円」が給与されたのである。当時、学校の教諭の年俸が約500円であったから、「月額金七円」の給与は少ない額ではない。校費生は、寄宿舎に入る義務などがあったが、重要なのは、次の校則・第53条である。

第五十三条 校費生卒業後満五ヵ年間、其身分進退ニ関シテハ校長ノ許可ヲ受クヘキモノトス

そして、第59条で、校費生の「契約書」の「書式」が定められている。「契約書」は校長に宛てて作成される。校則を守ることと、上記の「第五十三条」を守り「身分進退」について許可をえることが契約された。

佐藤政次郎の札幌農学校卒業は1901年7月であり、韓国へ渡航し、統監府勸業模範場に就職した1906年5月から6月の期間は、実は、この契約期間のなかに入るのである。佐藤政次郎は、佐藤昌介校長に「身分進退」にかんして「許可」を得なければならなかった。佐藤昌介校長と卒業生・佐藤政次郎との関係について、佐藤昌介の日記類のなかで、互いにたびたび交信していることが判明したが、このような札幌農学校の制度にもとづく関係が存在したのである。札幌農学校卒業生の統監府時代の韓国植民政策への参画には、佐藤昌介校長が「許可」を出したのである。札幌農学校の日本の植民地支配への参画の問題がこの点からも指摘される。

- (1) 原文の註記は（ ）によって、校訂者の註記は[]のなかに記した。
- (2) 原文の節の通し番号は、1, 2, から4), 5)などと変わる場合があるが、原文のままとした。
- (3) 原文でしばしば使用されている片は、トキに改めた。

- (4) 原文のなかのマルとカンマは、しばしば判別しがたい。校訂者において適宜判別したところがある。
- (5) 原文の誤字は、そのままとし、校訂者の「ママ」という註記を加えた。

Index

参考書紹介 p.1

總論

殖民事業ノ解釋 2-5

殖民ノ原因

社会的, 宗教上, 政治上

經濟上, 冒險の探求

植民事業ト政治問題 5-6

殖民ノ時機 6

殖民事業ノ結果 6-10

1, 商業ノ拡張

2, 運輸業ノ発達

3, 新知識ノ獲得

4, 世界經濟ノ勃興

5, 人口ノ平均

6, 同胞主義ノ擴張

第二章 殖民ノ種類 12-14

第三章 殖民地ニ於ル經濟上ノ特質 15-23

第四章 殖民地政府ノ組織 23-24

殖民論

参考書

Ireland. A Tropical Colonization

Roscher Kolonialpolitik

Leroy Beaulieu De La colonization chez les peuples modernes

Lucas A Historical Geography of the British Colony 5vols
(1897)

Heeren A manual of the History of the political system of

	the Europe and its Colony (1830) (Translated from German)
Brougham	Colonial Policy
Merivale	Lectures on Colonization and Colonies (1861)
Wakefield	On Systematic Colonization 1847
Lewis	On the Government of Dependencies 1894
Cotton & Payne	Colonies and Dependencies (1883)
Seeky	Expansion of England or Great Britain
Woodward	
Vignon	L'Expansion de la France
Laucsson	
Girault	Principes of Colonization
England	Her Majesty's Colonies
Zuirucrmann	Die Colonial Politik Gross Britanniens (1899)
Mays Smith	Emmigration and Immigration

総 論

殖民事業ノ解釋

殖民事業ハ之ヲ大ニシテハ建国ノ事業トナシ、之ヲ小ニシテハ個人經濟ノ事業トナス。而シテ殖民事業ハ古昔ヨリ今日ニ至ルマデ、國ノ歴史上ノ事實ナリ。

或ル時期 (epoch) ニ於ケル殖民事業ハ盛大ヲ極メテ連綿數世紀ニ渡リ或ル時機ニ於テハ殖民事業ハ全ク中止ノ姿ヲ呈ス。(Dormaut) 古代ノ Phenesia [ママ], Greece, Rome 各其國ニ特色ナル [ママ] 殖民事業ヲ經營シタルモノナリ。近代ニ及ンデハ米國ノ發見ハ實ニ殖民事業ニ新紀元ヲ開キシモノナリ。爾來 Lord Bacon ノ如キ Adam Smith ノ如キ, Heeren ノ如キ, 哲學者經濟學者政治學者等ハ殖民問題ニ新シク科學的觀察ヲ與ヘテ或ヒハ殖民ノ種類, 性質, 沿革, 動機 (motive) 等ヲ研究スルニ至リヌ。輒近殖民問題ハ新局面ヲ開カシメタリ。即チ帝國主義ノ擴張ト實利ノ掌握ト社會問題ノ解釋ト

ヲスルコトヲ連帶セシムルニ至リヌ。之ヲ以テ益々學者ノ研究ヲ之ニ向ッテ注グコト、ナリヌ。遂ニハ殖民学機ヲ起シヌ。殖民事業ヲ科学的ニ組織的ニ研究スルノ企テアルニ到リタリ。而シテ學者間ニハ殖民其物ニ新シク定義ヲ下スコトヲ試ミ、即チ Colonisation ナル字ヲ Latin ノ Colonia ト同一ノ意味ヲ有スルモノトシ即チ colonia civium Romanorum ト称セラレ農業殖民地ヲ意味スルモノナリ。

而シテ其本国トノ關係ヲ政治上ニ社会上ニ有スルコト厚キモノナリ。然ルニ又 Roma ニ先立チテ Greece ハ特殊ノ殖民事業ヲ經營シタルモノニシテ其殖民地ハ専ラ *αποικια* ト称スルモノナリ。其本国トノ關係ハ甚ダ薄キモノニシテ殆ント独立ノ新社会ヲ建設スルモノナリ。

故ニ殖民地ハ政治上ニ於テ本国トノ關係ヲ有セザルモ殖民地タルニ妨ゲナシ。

Lewis 氏ノ定義ニヨレバ [原文以下タイプ]

A Colony properly denotes a body of Persons, belonging to one country and political community, who having abandoned that country and community form a new and seperate society, independent or dependent, in some district, which is wholly or nearly uninhabitant, or from which they expel the ancient inhabitants. [タイプ終り]

殖民原因

植民ノ原因ハ之ヲ歴史上ノ事實ニヨリ觀察スレバ、

- 1, 社会的原因
- 2, 宗教上ノ原因
- 3, 政治上ノ原因
- 4, 經濟上ノ原因
- 5, 冒險的探求ノ原因

以上ハ重ナル原因トシテ其大要ヲ述ブレバ、

- 1, 社会上ノ原因ハ専ラ人口ト土地トノ關係ヨリ起ルモノナリ。一国ノ人口ハ年々蓄（蕃）殖ヲ見ル土地ノ面積ニハ際限アリ其生殖力ハ人口ノ蕃殖ニ伴フテ増加スルコト不能モノナリ。此ヲ以テ狹隘ナル国土ニ比較的多數ノ国民ノ棲息スル時ハ其生計ハ困難ヲ極メ為ニ社会的不平ヲ国民間ニ生ジ茲ニ国民ノ一部ヲ他ニ移動セシメテ其不平ノ原因ヲタ、ザルヲ得ザルナリ。労働者ノ職業ヲウルニ困難ナルコト農民ノ土地ヲ得ルコトノ困難ナルコト、食料ノ欠乏スルコト、出兵ノ屢々起ルコト種々ノ原因ハ相結合シテ時ニハ社会的争乱ヲ起スコトアリ。蓋シ其本ハ人口ノ過剰ノ蕃殖ニアルモノニシテ植民ハ其自然ノ結果ト云ハザルベカラズ。古代 Greece, Rome ノ植民モ社会的原因ハ確ニ其一因ナリキ。近代 Irland ノ人民ガ米国ニ移住スルモ其本国ニ於ケル不平ヲ醫スルノ希望ヨリ出ズ。
- 2, 宗教上ヨリ植民ヲ起セルコトハ米国ノ発見以来歴史上ノ一大事實ナリ。中古ノ十字軍ノ Palestine ニ戦端ヲ開キ、宗教的熱心ヨリ土地ノ政畧ヲ小亜細亞地方ニ企テタリト雖モ永遠ノ植民ヲ茲ニ見ルコトヲ得タリキ。反之シテ米国発見以来英、佛、西ハ宗教ヲ宣布スルノ目的ヲ以テ又信仰ノ自由ヲ得ルヲ以テ彊民ハアゲテ移リタリ。之ニ於テ遂ニ永久ノ植民ヲ米国ニ於テ建築セルニ到リタリ。

France ノ Canada ニ於ケル

英国正宗徒ノ New England ニ於ケルハ其適例ナリ。

- 3, 政治上ノ原因ハ

国ノ權力ヲ擴張シテ土地ノ征服ヲ目的トスルモノナリ。其結果ハ遂ニ學術上ニ於ケル植民地ヨリハ寧ロ属邦及ビ征服地ヲ称スルコトナリ優等ノ種族ハ劣等種族ヲ征服シテ殆ント之ヲ奴隸トナシ或ヒハ之ヲ域外ニ expel シ新タニ植民地ヲ建設スルモノナリ。Spain ノ中央及ビ南 America ニ於ケルモノハ其適例ナリ。

- 4) 經濟上ノ原因

植民ハ本ヨリ經濟ト離レテ立ツコト不能ルモノナリ。經濟ノ基礎ノ上ニ建タザレバ植民ハ決シテ永久的ノモノナラズ。富ハ實ニ植民事業ノ中心ナリ。而シテ近年ニ及ンデ植民事業ハ益々經濟的性質ヲ帯ビルニ到リヌ。

農業ノ植民地ヲ開設スルコト又ハ商業地ヲ擴張スルコト、或ヒハ採砵事業ヲ起スコト之等ハ經濟的植民ニ於テ欠クベカラザル事業ナリ。土地異ナレバ天然ノ生産モ亦自ラ異ナルモノナリ。金銀銅鉄ノ如キ天然ノ鉱物ノ如キ鳥獸魚介ノ如キ特別ノ動物或ヒハ珍貴ノ果實、或ヒハ木材之等ヲ新開ノ土地ニ於テ經濟的使用ニ新タニ発見シテ之ヲ貿易上ノ物件トナシ、以テ人工品ト之等ノ天産物ト有無相通シテ彼我ノ利益ヲ計ルコトヲ米国ノ発見植民ノ起リシ以来屢々繰返サル、事實ナリ。今日ニ於テ未タ其ノ事業ハ終局ニ到リタルモノニアラズシテ益々新局面ヲ開クコトヲ得ル有様ナリ。蓋シ世界ハ未ダ幼稚ナリ。社会ハ未ダ全ク世界的ニナラサルモノナリ。故ニ近世ノ一大刺激力タル運輸交通ノ機關ノ発達スルニ從ヒ、益々經濟的植民事業ノ擴張セラル、ニ至ル。然レトモ運輸交通ノ発達ハ世界ノ Geometrical 面積ヲ縮小スル故ニ此ノ經濟的植民事業ニ對シテ其性質ヲ (Nature, character) 稍々変ゼシムルニ至ル。交通不便ノ當時ニ於テ又未開ノ国土ノ東西兩半球ニ於テ [原文空白] 時代ニ在ッテハ殖民事業ハ危險ノ性質ヲ帶ビルモノナリ。今日ニ至テハ之ヨリ安全 (稍々) ナル確實ナル設計ニヨリテ此殖民事業ヲ經營スルヲ得ルニ至リヌ。即チ市場ノ状態ヲ計リ、土地肥瘦ヲ鑑ミ人口ノ過不足ヲ能ク推察シ、以テ資本ノ投下ヲ定メ、其報酬即チ利益ヲ豫算シテ經營スルヲ得ルニ至リタリ。殖民事業ハ此 [原文空白] ニ在リテ全ク經濟的起業ナリ (Economic Enterprise) 近世ノ濠洲ニ於ケル英國ノ殖民事業米国ノ西部地方ニ於ケル殖民又ハ独乙ノ或国内ニ於ケル植民ノ如キ極ク近年ニ及ンデ東洋ノ諸国ニ商業区域擴張ヲ歐洲諸国ノ企ツルモ、一種ノ殖民事業ト見做スコトヲ得。

5) 冒險の探求ノ原因、

冒險的探求ノ原因ハ最古ノモノナリ、古昔、フェニシア人ノ地中海ノ沿岸及地中海以外ニ迄モ往来シテ所々ニ其殖民地ヲ開キ或ヒハ砵物ヲ獲得スルコトヲ努メ、又ハ商業品地ノ拡張ヲ勉メタルハ其適例ナリ。近世ニ及ンデ米国発見ノ [ここから原文は改頁で、改行が左端詰めに変わる] 當時、数多ノ冒險者ヲ出シヌ。蓋シ名誉心ニ驅ラレシモアラン。又ハ富ヲ獲

得スルノ熱望ニカラレシモアラン。或ヒハ又学理ヲ実地ニ研究スルノ目的ニ出デタルモアラン。其動機ハ同一ナラズト雖モ、其事業ハ冒險ノ性質ヲ有シタリ。其ノ人ハ国ヲ異ニシ、時代ヲ異ニスト雖モ其冒險ノ結果トシテ国ヲ発見シ富源ヲ開発スルニ至リシモノ多シ。又航海通路ヲ安全ナラシムルニ至リシモノナリ。地理上ノ大發明？ ヲ起シタルモノモアリ。蓋シ異大 [ママ] ノ事業ハ決シテ一人ト一時トニ於テ成功スルモノナラズ。米國ノ如キモ Columbus 以来発見ニ発見ヲ重ネテ遂ニ大陸全部ヲ知ルニ到リタリ。

以上ノ種々ノ原因ヨリ種々ノ植民地ヲ起シテ決シテ單一ノ原因ハ单独ニ働キテ植民地ヲ起スコト少シ、数多ノ原因ノ結合シテ遂ニ種々ノ植民地ヲ起スニ到リタリ。

植民事業ト政治問題

植民事業ハ個人ノ任意ニ出ヅルモノ、又ハ社会ノ刺戟ニ出ヅルモノナリ。不問政治問題ヲ引キ起セルモノ往々歴史上ニ見ル処ナリ。其關係ハ殖民地ト本国トノ政治的關係トナルモノナリ。又ハ移住國ト殖民者者 [ママ] ノ本国トノ國際問題トナルモノアリ。往時ニ當ツテハ所謂殖民政略ナルモノヲ英國ノ殖民地ニ起レリ。屢々航海律ヲ出シ殖民貿易ヲ管理スルコトヲ企テタリ。(Colonial Policy) 殖民地ニ科租スルノ当否ノ如キ最モ政治上ノ大問題ナリ。之カ原因トナリ米國ノ獨立戰爭ヲ起セリ。

本国ニ於テ殖民地ヲ主配 [ママ] スルノ場合或ヒハ其國內ニ於ケル殖民地ヲ主張スルノ場合ニ於テ殖民地ニ於テハ行政及立法機關ノ設備ノ如キモ政治問題ト緊要ナルモノナリ。本国ニ於テ Territory ノ行政組織ハ建国ノ始メニ於テ (米國) [ママ] 米國政府ノ最モ苦心セルモノナリ。

國際間ニ渡ル政治問題ニ到ツテハ之ヲ近代ノ事實 (殖民上ノ) ニ徴スルモ或人種ノ移住ヲ制限シ若シクハ全ク禁止セントスルカ如キ問題、又ハ殖民地ノ沿岸ニ於ケル入会漁業問題ノ如キハ其著シキモノナリ。之ヲ往時ニ溯ッテ國際間ニ互ル政治上ノ問題ハ殖民地ニ於ケル實利又ハ實權ヲ占領スルノ競争ヨリ起レルモノ多シ。Spain ト英國、英國 ト Holland 又ハ France, Spain 英國トノ米國ノ殖民地、或ヒハ東西印度、南洋諸島ニ於ケル植民事業ノ競争ノ

如キ引|テ競争ノ結果戦端ヲ醸シ或ヒハ同盟ヲ形成シ、國際間ノ宣戦ノ交附トナリ平和ノ政策トナルカ如キモ既往三百年間ノ歐洲ノ歴史ハ殖民地ニ關係セルモノ少ナカラズシカシテ殖民上ノ問題ハ漸次東漸スルノ傾向アリ。初メハ米國ニ於テ重大ナル問題起リ近年ハ Africa 殖民地割據ノ問題ハ著シキ國際問題ナリキ、其結果トシテ自由國ヲ Congo ニ起スニ到リタリ。

18 世紀ノ終末ニ到リテ東洋即チ絶東ハ國際間政治ノ活舞台ニシテ權力競争ノ焼? (焦) [ママ] 点トナリタリ。露國ノ西比利亞ノ殖民, Siberia, 滿州及ビ東清鐵道ノ敷設, 及ビ清國門戶解放問題ハ歐洲ノ政治問題ヲ東洋ニ移スノ動機トナリヌ。遂ニ資本ト人口ト兵力トヲ東洋ニ植ウルノ基トナリヌ。或意味ニ於ケル殖民問題ト称ス可キナリ。

殖民ノ時機

殖民事業ハ歷史上ノ一大事實ニシテ國アリ人口アリテ以來殖民事業ヲ実見セサルモノナシ。然レトモ、殖民事業ハ尤モ隆盛ヲ極ムル時機ハ各國ニ於テ各々異レリ。殊別ノ原因アリテ大ニ殖民事業ヲ刺戟シテ或時機間殆ント間斷ナク殖民事業ヲ繼續スルコトアリ。而シテ又或ル原因ヨリ殖民事業ノ頓坐シテ暫ク其跡ヲ納ムルモノアリ。殖民事業ニ大刺戟ヲ與フルモノハ発見事業ナリ。新國土ノ発見, 新航路ノ発見及ビ新砦山ノ発見等ハ人身心? [原文身の上に心? を添記] ヲ變動セシメテ生國々外ニ新事業ヲ起スノ念ヲ誘フタルモノナリ。歷史上ニ於テ新紀元ヲ開キタル時ハ即チ殖民事業モ亦新紀元ヲ起シタルトキナリ。國ノ尤モ強キ時, 國民ノ元氣旺盛ナル時ハ個々人ノ任意的冒險の事業ヲ國民ニ試ムルノ時ナリ。

殖民事業ノ結果 (大畧)

殖民事業ハ經濟上ニ政治上ニ社會上ニ又ハ教育上ニ大ナル影響ヲ及ボスモノニシテ其近代ノ歷史上ニ歌ハレタル治蹟ニヨリテ其結果ノ主ナルモノヲ上グレバ

- 1, 商業ノ擴張
- 2, 運輸業ノ発達

- 3, 新知識ノ獲取
- 4, 世界經濟ノ勃興
- 5, 人口ノ平均
- 6, 同胞主義ノ擴張

之等ヲ重ナル結果トスル。

1, 商業ノ擴張ニ就テハ英国ノ殖民政畧ニ於テ殖民地ヲ以テ本国ノ市場ト見做スコトナリキ。専ラ殖民地ノ開発ハ本國ノ生産事業ヲ利スルト云フコトナリキ。

然レトモ近代ニ於テハ商業ノ発達ハ其範圍益々擴張セラレテ殖民地ハ本国ノ市場タルノミナラズ他ノ通商国ノ市場トナリ、殖民地以外ノ諸国ハ殖民地ニ向ツテ市場ヲ開クモノナリ。殖民地ノ事業ノ発達スルニ從テ殖民地ノ生産ハ特ニ市場ニ於テ殖民地生産品ト稱シテ (Colonial warren) 特別ニ珍重セラル。商業ハ元来一方ノ利益ヲ與フルモノニアラズ相互的ノモノナリ。輸出品ヲウクルモノハ輸入品ヲ持来リモノナリ。往時ノ殖民事業ニ在ツテハ専ラ天然物ノモノヲ殖民地及其以外ノ商業ヲ成立セリ。現今ハ独リ天然物ノミナラズ殖民地ニ於ル粗製品又ハ自然力ヲ利用シテ工業品ヲ殖民地ニ出シ以テ商工業ノ関係ノ新タニスルモノアルニ到ル。

2, 運輸業ニ到ツテハ殖民事業ト密接ナ關係ヲ有スルモノニシテ殖民事業ト運輸事業ト消長ヲ共ニスルモノナリ。運輸業ノ進歩セル國ハ殖民事業ニ於テ必ズ成功ヲ占メタルモノナリ。十七八世紀ニ於テ Holland ノ運輸業ノヨク海權ヲ掌握セル時ニハ尤モ旺盛ヲ極メタルモノナリ。Holland ノ海權ノ衰歌ハ即チ殖民事業ノ衰頽ニヨル。

3, 新知識ノ獲取 殖民ハ新社会新境遇ヲ造ルモノナリ。国土氣候ノ異ル處ニ人口ノ間斷ナキ移動ノアルモノナリ。境遇ノ異ナル時ハ新思想ヲ起スモノナリ。外物ノ刺戟ヲウクルコトノ多キモノナリ而シテ又殖民者新規模ヲ起スコトノ多キモノナリ。元来殖民ハ從來ノ境遇ヲ改良シテ新ニ安身立命ノ境遇ヲ企ツルモノナレバ、其望希ヲ達セサル内ハ移動ヲ止メズ。故ニ之ヲ歷史上ノ事實ニ照セバ、殖民地ハ殖民地ヲ産ムコトハ既ニ Greece 当時ノ殖民地ヨリ米国ノ殖民地ニ至ルマテ悉ク其適例ヲ與フ。米国ニ於テ屢々姉妹州ナル

コトヲ聞ク。殖民地ノ起原ヲ云ヒ顯ス言葉ナリ。Greece 当時ニハ殖民地ハ Cities ナリシヲ以テ Doughter City ト云フ。米国ニテハ Sister state ト云フ。如此ノ状態ハ殖民地一般ニ於テ見ルコトナリ。之ヲ以テ殖民地及本國ニ於ル關係アル社会ハ自然ト新知識ヲ招クモノ多クナルニ到ル。現存セル事實ニヨリ新知識ヲ蒐集ス。植民事業ハ此点ヨリ觀察スル時ハ知識ニ向ツテ新タナル進路ヲ開クモノナリ。或ヒハ地理、歴史等ニ知識ヲ得ルモノナリ。[原文空白] 報告ノ現出、新聞ノ出現通信ハ増加スル等自然新知識ヲ増加スルモノナリ。

4、世界經濟ノ勃興 植民事業ハ世界經濟ヲ興スル [ママ] 到ルハ之ヲ近来ノ植民事業ノ発達ト世界貿易ノ擴張トニ相對照スルトキハ、其事實然ルヲ認ム。植民事業中尤モ刺戟ヲウクルモノハ經濟上ノ刺戟ナリ。国土ノ異ルニ從テ生産ノ異ナリ殊ニ殖民地中 Plantation Colony (出稼殖民) ト稱スルモノ即チ南洋諸島或ヒハ濠洲ノ一部又ハ南米ノアル地方亜布利加ノ一部等ニ於テ殊別 [ママ] ノ生産物ノ得ルタメニ之ニ資本ヲ注入シテ事業ヲ起ス殖民地アリ。事業者ハ其人口ヲ殖民地ニ移シ殖民地ノ新社会ヲ造ルニアラスシテ資本ヲ移シテ事業ヲ起スニ在リ。其事業ハ殊種 [ママ] ノ産物ニ關スルモノニシテ例ヘバ南米ニ於ケル Coffee ノ Plantation 濠洲ニ於ル牧羊地ノ Plantation 之レヲ往時ニテハ米国南部地方ノ Tabacco ノ Plantation ノ如キハ其一例ナリ。近代 German 國ニ於テ殖民地生産品ト稱スルモノハ即チ此種ノ殖民地ヨリ多ク輸入シ來レルモノナリ。此等ノ生産品ヲ獨リ資本ノ出デタル本國ニ送ルノミナラズ、一般ニ世界市場ニ之等ノ生産品ヲ送り出ス。之レ世界經濟ノ一端ヲ開クモノナリ。而シテ殖民地ハ政治上ニ於テハアル一國ノ支配ニ任セリト雖モ經濟上ニ於テハ今日ハ殆ント何レノ國ノ支配ヲ受クルモ敢テ撰ブ所ナク、只其政治ハ植民事業ノ発達ニ充分ナレバ、喜ンデ之ニ資本ヲ注入スルノ傾向アリ。之ヲ以テ米國ノ殖民地ニハ歐洲ノ資本ハ續々注入セラレ南米ノ殖民地ニハ獨乙ノ資本英ノ資本モアル。Arzentine ハ英、Brazil ハ独等ナリ。

殖民地ハ必ズシモ人口ノ外圧ヨリ來タルモノノミニアラズ。資本ノ移動ハ植民事業ニ大關係ヲ帶ブ故ニ殖民地ノ如キ事業ノ多クシテ資本ノ欠乏セル所ニハ遊資ノ之ニ流入スルハ当然ナリ。加フルニ近年交通運輸ノ機關発達スル

ニ得テ [ママ] 需用者 [ママ] ハ生産者ノ地理上ノ距離甚ダ近接シ國ト國トノ經濟上ノ關係ハ複雑ナルモノトナリ、一國ノ經濟ヲ所理スルニ萬國ノ經濟上ノ變動ヲ講究セサルベカラズ。金利及物価ハ一國內ニ於テ定マルモノタラスシテ世界的金利世界的物価ヲ起スニ到ル。之等ハ今日世界ノ政治及經濟ノ上ヨリ来タルモノナリ。而シテ殖民事業ノ如キハ世界經濟ヲ建設スルニ講究スヘキモノナリ。

5, 人口ノ平均

1, 國內ニ於ル地方の人口ノ粗密ヲ平均セシムル結果アリ。population / centre ハ必ズ或地方ニ於テ之レヲ占ム。殖民事業ノ起ルニ從テ其中心ハ移動ス。米国ノ発達ハ人口ノ中心ヲシテ西漸セシム。(chicago ヨリ以西トナル)之ヲ我国ノ人口ノ配置ニ考フルトキハ東北及北海道ハ人口甚ダ稀粗ニシテ畿内中国及ビ九州ハ人口ハ甚ダ密ナルモノナリ。我国人口ノ移動ハ漸次東漸スルモノト見テ差支ヘナシ。

都会及地方トノ人口ノ配置ヲ考ヘテモ如何ニ殖民事業ハ至大ノ影響ヲ及スハ知ルニ不難。近年人口ノ移動ハ瀕ニ都会地ニ向フ, 工業商業ノ中心ニ向フ。

[原文空白] 勢変スルモノニシテ都会ニ於テ人口ノ集合シ過グルヲ以テ労働社会ハ困難トナリ生計ハ困難トナリ又資本家ハ薄利ヲ以テ満足セザレバナラザルニ至ル殖民事業ハ實ニ此ノ労働者社会及資本家ニ向ツテ有益ナル出口ヲ與フルモノナリ。此ニ於テカ國內ニ於テ人口粗ナル地方ニ人々ノ或ヒハ潮流ハ [ママ] 進ミ又ハ海外ノ殖民地ニ向ツテ出稼移住ヲナスモノアルニ到ル。然レトモ人口ノ移動ハ國內ニ於ケル一ケ年ノ人口ノ増貯ヲ稠加スルト云フ。未ダ趙加 [ママ] セル事實ヲ認めズ。アル一地方ヲ取りテ人口ノ移動ヲ調査セバ或ヒハ増殖数ヲ調加 [ママ] ヲ発見スルトモ確ム。之レヲ一國ノ人口ノ増減ニ就テ調査スルトキハ其増殖数ハ遙ニ失フタル人口ニ増加ス。我国ノ人口ノ如キ年々四十万ニ近キ増加ヲ見ル。即チ 1/100 以内ナリ。

6, 同胞主義ノ擴張

殖民ノ最後ノ結果トシテ同胞主義ノ現実ヲ殖民地ニテ見ル。之レヲ近ク米国ノ殖民地ニ例ヲ引ケバ殆ント歐洲諸國ノ国民ノ代表者ヲ持タサル殖民地ハナシ。各國民ノ入会殖民地ト稱シテモ可ナリ。帰化ノ殖民者ヲ以テ新社界ヲ

築建スルモノナリ。然レトモ国家ト云フ觀念ハ制度文物ノ上ニ現ハル殖民者ハ各々特色ヲ帶フルハ事實ナリ。其本国ヨリ習慣風俗ヲ持來シ制度文物モ宗教ヲモ持來シ而シテ或ルー国ノ殖民者ノ多数ヲ占ムル所ニハ其ノ本国ノ国風ハ事實ノ上ニ現ハル。此ヲ以テ教育ノ如キモ畫一ノ教育法ニヨル不能シテ地方地方ニ於テ其特色ヲ有ス。例ヘバ独乙ノ殖民者ノ多キ地方ニテハ小學校ニ於テ独乙語ヲ教授ス。Norway, Sweden 人ノ多キ所ニハ Norway 語ヲ以テ教授ス。本国ノ特色ヲ幾分カ其間ニ於テ保存セリト雖モ一端新社群ヲ建築セル上ハ米國ノ共和主義 (Democratic) ニヨリテ凡テ支配サル、モノナリ。本国ヲ愛シテ新帰化國ヲ愛セサルコトハ決シテナシ。新帰化國ノ國民タル義務ヲ盡スコトニ於テハ敢テ米國ニ於テ生レタル國民ト異ナルコトナシ。名誉ノ位置ヲ占ムルニ於テモ往々新帰化ノ人之ヲ占ムルモノアリ。行政ノ枢機ニ與ルモノ立法ノ要務ニ當ルモノアル例ハ少ナカラズ。況ンヤ地方ノ立法体ノ自治制ニ於テハ彼我ノ區別ハ更ニナシ。帰化民ヲ若シ除カントスルトスルカ如キ傾向アルトキハ之レヲ狹隘ナル Americanism (米國主義) ニシテ輿論ハ之ヲ不取。而シテ帰化セル米國民ト其本国ノ國民トハ如何ナル關係ヲ有セルヤト問フニ尤モ親密ナル關係ヲ有ス。相互ノ往来ハ絶ユルコトハナシ。結婚ノ如キ慰問ノ如キ關係ヲ有スルコト僅少ニアラズ。經濟上ノ關係モ少ナカラズ。或ヒハ本国特有ノ產物ヲ送ルアリ。又ハ新殖民地ノ產物ヲ本國ニ輸出スルコトアリ。商業上ノ關係モ又密接ス。時トシテ (空白) ハ帰化セル人ハ其本國ニ帰化國ノ駐在官トシテ派遣サレ領事事務官又ハ外交官トシテ本國ニ派遣サル、アリ。以上ハ米國ノ殖民地ニ於テ屢々見ル所ノモノナリ。佛、独、英等ノ殖民地ニ於テ他國ノ人ヲ拒テ入レサル等ノ如キ事ハ決シテナシ。近來米國ニ於テ労働者移住ノ反對ハ一時ノ現象ナラント思フナリ。只支那人ノ如キハ同化力ヲ不有。彼等ハ又永住ノ念ヲ有セズ。故ニ彼等ニ對シテ特別ノ政策ヲ行フコトハ止ムヲ得サルコトナリ。然レトモ米國ト云ハス又濠洲亞弗利加其他南洋諸島ノ殖民地ニ於テモ、歐羅巴人種ハ新殖民地ヲ建築スルニ當テハ更ニ彼岸ノ區別ナク四海皆同胞ノ主義ヲ以テ新殖民地ノ建築ヲ勉ム。

殖民事業ノ結果ニ付テ述ブレバ大畧此ノ如シ。

終リニ到テ (殖民ヲナス國) 殖民ヲ送ルノ國ハ殖民ヲ入ル、ノ國ニ於テ即

チ母国ト殖民地ト相互ノ間ニ著シク相異セル事實ヲ述ブレバ

母国ハ国土ハ開国以來古ク人口夥多ナリ。實力（經濟上ノ）ハ富ミ国土ハ狹隘ナリ。

反之殖民地ハ人口稀粗ニシテ劣等ノ種属ハ住ムカ又ハ全ク住マザルカノ經濟上ノ實力ハ甚タ薄弱ナリ。未開ノ土地多ク其国ノ歴史ハ未タ新シク或ヒハ未開人種ノ口碑遺傳ヘヲ有スルニ不過。

此比較上ヨリ考フルモ殖民事實ハ文明ノ事實ノ擴張ナリ。經濟的事業ナリ。又社界及ビ国家ヲ建築スルノ事實ナリ。又人道 (Humanity) ノ為メニ或ヒハ壓力ヲ除キテ自由ニシ又未開ヲ導テ人道ノ域ニ進マシムルモノナリ。既往四百年間ノ殖民事業ハ經歷ヲ經テ稍々組織的 (Systematic) ナリ。科学上又ハ歴史上ニ之レヲ研究スルノ材料ヲ有スルモノナリ。

※

J. Plas

Principles of Colonisation

- 1, Colonies de [ママ] peuplement
- 2, Colonies d'exploitation [ママ]
- 3, Colonies de Commerce
- 4, Colonies de plantation
- 5, Colonies de [原文空白]
- 6, Colonisation militaire
- 7, Colonisation pénale

第二章

殖民ノ種類

Heeren ノ分類ハ四種ニ分ツ

- | | |
|-----------------------|-------|
| 1, Ackerbau Kolnien | 農業殖民地 |
| 2, Pflanzungskolonien | 出稼殖民地 |
| 3, Bergbaukolonien | 鉱業殖民地 |
| 4, Handelskolonien | 商業殖民地 |

Roscher ノ分類ニヨレバ

- | | |
|-----------------------|-------|
| 1, Eroberungskolonien | 征服殖民地 |
| 2, Handelskolonien | |
| 3, Ackerbaukolonien | |
| 4, Pflanzungskolonien | |

※(前頁参照)

Lucas ノ分類ニヨレバ Heeren ノ分類法ニ Pastoral class ヲ特ニ入ル、ヲ至当トセリ。Pflanzungskolonien ノ外ニ論ズルナリ。今此処ニ専ラ Roscher ノ分類法ニ從テ各殖民地ノ特質ノ概意ヲ述ブレバ

1) 征服殖民地ハ之ヲ歴史ニ徴スルニ近代ノ初メ殖民事業ノ起ルニ当テ中央亜米利加、南亜米利加等ノ或ル地方ニ於テ西班牙国ノ殖民者ハ軍隊ノ組織ヲナシテ当時ノ住民ヲ征服シテ或ハ之ヲ奴隸トシ付隸トシ其土地ヲ占領シ其財産ヲ掠奪シ其權利ヲ政治上ニ宗教上ニ經濟上ニ勝利ヲ占メ本国ノ少数ノ殖民者ヲ以テ征服地ヲ統御セルハ即チ之レナリ。此ノ種ノ殖民地ハ人口ノ甚タ粗ナル処、經濟力ノ甚タ薄弱ナル処ニテハ行ハレズ、寧ロ或ル程度マテ文明ノ影遇[ママ]ニ在テ相手ノ国力ヲ有セルモノハ即征畧殖民地トナル。Mexico, Peru ハ既ニ文明ノ域ニ達シタリキ。此時ニ Spain ハ征服セリ。古昔 Rome ノ兵力旺盛ナル時代ニ在テ或ハ Africa ニ或ハ以太利ノ市外ノ地方ヲ征服シテ此ニ軍隊ヲ移住セシメテ所謂現今ノ屯田殖民地ヲ開設セルコトアリ。之等ヲ特ニ稱シテ Roscher ハ Militaer Kolonien ト稱シテ征畧殖民地ノ一種トナス。

2) 商業殖民地ナルモノハ極ク近代ニ於テ其発達ノ顯著ナルモノヲ見ル。航海事業ノ発達ニ商業ノ進歩ニ帰因ス。船舶ノ往来スルニ当リテ遠航海ナル場合ニハ或ヒハ石炭ノ積ミ入レヲ要スルアリ。或ヒハ飲料水ヲ積入ルノ必要アリ。或ヒハ糧食ヲ準備スルノ必要アリ。或ヒハ疾病者ヲ上陸セシメ、或ハ船舶ノ修繕ヲ要スルコトアリ。故ニ航海ノ要路ニ当ル場所ニハ船渠（ドッグ）[カッコ内は上側ルビ]ヲ設クルカ倉庫ヲ設置スルカ、或ハ又製造所ヲ設置シテ製造品ヲ輸出スルコトヲ企テ、或ヒハ海員ノ養成所ヲ設置スルカ、此等ノ設備ノタメニ自然ニ其土地ハ発達シテ自由貿易港トナリ、以テ繁盛ナル殖民地トナルモノ往々有之。近時ノ香港ノ如キ Singapore ノ如キ Attens ノ如キ God hope cape ノ殖民地ノ如キ、皆其本ヲ尋ヌレバ

Handelskolonien ナリキ。

3) 農業殖民地ハ殖民地中尤モ重要ナルモノニシテ此種ノ殖民地ハ発達シテ逆ニ州トナリ國トナル未開ノ地ニ行ハル、處ナリ。此土地ハ開闢以来或ヒハ僅カニ野蠻人ノ往来スル所トナルニ不過ルアリ。森林ハ斧鉞ノ未タ入ラザルモノ原野ハ未ダ鋤犁ノ入ラサルモノ山川沼澤ノ開ケサルモノ、港灣ノ未タ船舶ノ入ラサルモノ礦物ノ未タ採掘セラレサルモノ、天然ノ富アルモ人生ノ利用ニ供セラレサル地方ハ即チ此種ノ殖民地ニ属ス。殖民ノ未独立シテ一ノ邦國ヲ形成スルモノアリ。又ハ殖民者ノ属セル本国ノ統御下ノ下ニ立ツモノアリ。此種ノ殖民地ハ其進歩ハ之レヲ他ノ殖民地ニ比セバ、比較的遲緩ナルカ如キ状況アリ。然レトモ其進歩タルヤ確實ナリ。殖民者ハ一時ノ来往ニハアラズシテ子孫ノタメニ新タニ郷ヲ移スモノアリ。其新境遇ヲ改良シテ幸福ナル生涯ヲ望ンテ来タルモノナリ。征畧殖民地ニ於ルコトキ人種ノ衝突權力ノ爭奪ハ甚タシカラズ。商業殖民地ハ資本ニ富ム國ノ事業ニ属ス。農業殖民地ハ勞力ヲ要ス。資本ノ運轉ヲ要スルコトハ商業殖民地ノ如ク其赴キヲ異ニスル。(1)ハ資本ノ運轉甚タ速カナルモノ(1)ハ資本ノ運轉遅キモノ、資本的經營ヲナストキハ其成功ヲ多年ノ後ニ帰セサルヘカラザルモノナリ。而シテ屢々難艱ニ遭遇スルモノ欠乏ヲ招クモノナリ。然レトモ人口ノ殖増ハ年ヲ追フテ著シク土地ノ開拓ハ生産物ヲ益々増殖セシメ天然ノ富源ハ年ヲ逐フテ又益々開カレテ初メ薄弱ナル貧弱ナル殖民地ハ年月ト労働ノ結果ニテ逆ニ經濟上ニ

強ク文物ノ又見ルヘキモノアルニ至ル。其新勢力ハ遂ニ旧國ヲ壓制スルニ至リヌ。即チ初メハ弱ク後ニハ難キハ農業殖民地ノ適例ナル歴史上ノ適例ハ北米合衆国南亞米利加濠洲南亞弗利加地方近世殖民事業ノ起因以来尤モ進歩著シキモノハ此農業殖民地ナリ。

4) 出稼殖民地 Plantation Colony

此種ノ殖民地ハ専ラ僑奢品〔ママ〕ヲ生産スル為メニ特ニ設ケタルモノナリ。例ヘバ Coffee, Sugar, Indigo, 其他ノ生産品ニシテ殖民地生産品ト呼バレツ、アルモノヲ産出スル為ニ設ケラレタルモノナリ。即チ本国ノ気候〔ママ〕ハ之等ヲ生産スルコト不能ナルモノナリ。若クハ生産シテモ甚ダ困難ナル所ノモノナリ。未開ノ土地ニシテ氣候ノ温暖ナル処土地ノ肥沃ナル所劣等種族ノ其地方ニ緇居シテ労働者トシテ之ヲ使用スルノ便宜アル地方ニハ此種類ノ殖民地ヲ開クコト容易ナリ。此種類ノ殖民地ニ於テハ事業ハ純正ノ農業ト都会ニ於ル工商業ノ間ニ介在スルモノナリ。工芸の植物ヲ専ラ栽培スルコトヲカム。本国ニハ資本ヲ供給スルノ殖民地ナリ。労働者ヲ往々隷属者トシ又ハ奴隷トナセル殖民地ハ少ナカラサルトコロナリ。米國ノ南部地方モ始メハ此種ノ殖民地ニ属セルモノト稱スルモ不可ナシ。即チ煙草ヲ栽培シ米ヲ作り、棉ヲ作ル其ノ農場ヲ称シテ通例 Plantation ト呼ベルモノ cotton plantation, 南米 Brazil 地方, 中央 America ノ Mexico 地方ハ Coffee ノ Plantation ヲ以テ知ラル。西印度地方ハ Sugar ノ plantation ヲ以テ知ラレ其他, 蘭領 Java ニ於ル西牙斑〔ママ〕ノ Philippine ノ如キ或ヒハ砂糖, 或ヒハ煙草ノ如キ本国ノ人種ガ之レニ永住シテ農業の殖民地ノ建築ヲ目的トセズシテ貿易品ヲ産出セシメ為メニ之等ノ殖民地ヲ占領シテ資本ヲ注入シ生産ヲ起シ貿易ヲ進ムルヲ以テ其目的トナス。此等ノ殖民地ハ一歩ヲ進ムルトキハ或ハ農業殖民地トナリ或ヒハ商業殖民地トナリ人口ノ増殖シ地方ノ発達スルニ從フ遂ニ殖民地ノ經濟の基礎ハ強固トナリ自治政ヲ行ヒ政治上ニ於テモ相等ノ進歩ヲナスニ至ルモノナリ。

第三章

殖民地ニ於ル經濟上ノ特質

殖民地ノ經濟上ノ特質ヲ研究シテ之レヲ旧國ノ狀態ト比較スルトキハ種々ノ點ニ於テ其特色アルコトヲ発見スベシ。蓋シ殖民地ハ旧國ノ發達セル順序ヲ踏ミ、其軌道ヲ追フテ進歩スルモノト見ルコト不能。或場合ニハ一躍シテ非常ノ進歩ヲナスコトアリ。旧國ニ於テ数十年若クハ數百年ノ年月ヲ經テ始メテ現實スルコトヲ得タル物質上ノ進歩モ新殖民地ニ於テハ直チニ之ヲ現出シテ階段の行為ヲ示サルコト往々アリ。例ヘバ交通機關ノ發達ノ如キ普通道路ノ未ダ完全セサルトキニ當リテ鐵道ノ既ニ貫通セルモノアルヲ見ル。耕作器械ノ如キ始メヨリ自然力或ヒハ動物力ヲ用ヒテ運轉スル新規ノモノヲ利用スルコトモアリ。其然ル所以ノモノハ殖民者ハ既ニ相當ノ文明ニ進ミタル國民ニシテ殖民ハ即チ其文明ヲ新開ノ土地ニ普及セシムルノ事業ナリ。經濟的事業ノミナラズ制度文物ノ如キ事業ガ階段ヲ踏マズシテ進歩スルコトハ往々之ヲ殖民史上ニ於テ見ル所ナリ。以之殖民地ハ反ツテ本國ニ優レル進歩ヲナシテ其新タナル勢力アル元氣ヲ以テ森々タル進歩ヲ現ハスコト往々アリ。之レヲ古代ノ殖民史ニ見ルモ Greece ノ文学ノ盛ナルハ Athence ヨリハ、Corynth ヨリハ却テ Miliathus, Ethisns, 小亜細亞ノ Greece ノ殖民地ニ於テ之レヲ見タリ。

經濟上ノ狀態ハ如何ナルモノナルヤニ就テ。

1, 生産物ノ種類 (殖民地ニ於ル)

殖民地ノ生産物ハ其初メハ勿論天産物ナリ。自然ノ生産物ニ屬ス。之ヲ鉱物ニシテ金、銀、銅、鉄石炭ノ如キ、魚獵ニ於テハ高價ナル毛皮類、大口魚、鮭、鰵、鯨又水牛ノ如キ、薪炭ノ如キ、森林ノ生産物ニ於テハ各種ノ建築用材特別船艦用材ノ如キ、而シテ熱帶地方ニ於テハ特別ノ生産物ナル Coffee, Sugar ノ如キ、Cotton Indigo 等ノ如キハ重ナル生産物ナリ。農牧ノ生産物トシテハ穀類、肉牛、羊毛等ナリ。

殖民地ハ漸次進歩スルニ從テ、其ノ生産物ノ種類ハ革ル。次デ工業的農産物起リ、粗製品ニ加工シテ世界ノ貿易品ヲ造ルニ至レリ。即チ製鉄(各種ノ)鋼材ノ如キヲ出セリ。穀粉類、綿布、毛布、農産製造品類等ノ用量ヲ減シテ

出木價貴キ製產品ヲ出スニ至リタリ。之レ即チ順序ナリ。

2、殖民地ノ物價

殖民地ニテハ物價ノ標準タルモノ少シ。故ニ物價ノ高低甚シキモノナリ。世界ノ市場ニ於テ物價ノ標準タルモノハ重要ナル貿易品ニ向ツテハ取引上ニ於テ現ハル所ノ價格ナリ。然ルニ殖民地ニ於テハ物價ノ高低常ナク、或時ハ非常ニ高く或ル時ハ非常ニ安ク、其依ル所ヲ有セサルハ常ナリ。之レヲ要スルニ加工品ハ高く粗製品ハ廉ク、又物價ノ尤ナルモノハ生産費以外運賃ハ重要部分ヲ占ム。勿論殖民地ヲ通シテ價格ノ均一ヲ求ムルコトハ甚タ難キモノナリ。地方的價格モ亦区々ニ分ラル。蓋シ交通ノ不便ナルト未タ正当ノ商業取引ナルモノハ殖民地ノ幼稚ナル時代ニ於テハ存在セサルカ為ナリ。

3、交換ノ状況

殖民地ノ物價ニ次イテ著シキ經濟上ノ事實ハ蓋シ交換ノ状態ナラン。交換ノ状態ヲ觀察スル時ハ經濟界ノ甚タ幼稚ナルコトヲ知り、殖民地ノ交換ハ専ラ物品交換ニ依ルモノナリ。物品ト物品トヲ交換シ又ハ勞力ト物品ヲ交換シテ貨幣ノ媒介ニヨル交換ハ殖民地ノ幼稚ナル時代ニ至テハ之レヲ行フコトヲ必要トセサルコトアリ。次ニ信用機關ノ如キハ未タ其ノ用ヲナスコト能ハサルカ為メニ、信用經濟ノ發達ハ殖民地ノ發達ヲ待タサルベカラズ。殖民地ニ於テ必要ナルモノハ日常生活ニ必要ナル物品ナリ。而シテ殖民地ニ於テ產出スル天產物ニシテ世界ノ市場ニ於テ珍重セラレ高價ヲ博スルモノト雖モ、例ヘバ毛皮等ノ如キ宝石類等ノ如キモノニ於テモ時トシテハ少量ノ價格ノ低キ必要品ト交換スルカ如キ奇ナル現象ヲ呈スルコト往々アリ。

4) 分業ノ程度

殖民地ニ於テハ分業ノ範圍甚タ狭シ。如何ナル種類ノ殖民地ニ於テモ一個専門〔ママ〕ノ業ヲ以テ立ツハ難シ。出来ルダケ他ノ職業ヲモ兼ねザルベカラズ。此ヲ以テ工業者ハ其技藝拙ナリ商業者ハ其業務ハ百般ノ事ニ渡ルカ為メニ精通セス。蓋シ分業ノ少キハ經濟ノ程度ノ低キコトヲ示スモノニシテ殖民地ノ或ル時代ニ於テハ蓋シ之ヲ擴ルコト不能ナルナリ。最近四五十年間ヨリ分業ハ分タレタリ。

5) 殖民地ニ於ル需要品ノ種類

殖民地ニ於テハ其社界〔ママ〕幼稚ナルカタメニ需要品ノ如キモ勿論実用ヲ貴ビ華驕ナルモノヲ避ケ尤モ經濟ニ適セルモノヲ要スルコトハ通常ノコトナリ。然レトモ其嗜好ノ比較的高尚ナク幼稚ナル社界故其〔空白〕ニ於ケルカ如キ物品ヲ要スルヤト云フニ決シテ然ラサルモノナリ。如何トナレバ殖民地ハ開明ノ程度高キ所ヨリ新タニ移リ新社界ヲ造ル故ニ其社界ノ嗜好ハ元來高尚ナルモノニ属ス。然レトモ殖民地ノ社会ヲ觀察スルトキハ一見シテ凡テノ事甚タ不秩序ナルヲ見ル。一方ニ於テ高尚ナル嗜好ヲ示シテ或ハ美術品ヲ貴ブノ風アレバ一方ニ於テ社会ノ現状ハ甚タ低度〔ママ〕低クシテ高尚ナル習慣ト全然反対セル有様ヲ顯ハスコトアリ。即チ人智ノ程度甚タ低クシテ High Culture ノ何物ナルカヲ知ラスシテ大イニ瞠着矛盾視セラレルモノヲ示ス。

6, 殖民地ノ貿易

殖民地ニ於ル貿易情況ハ勿論旧国ト異ナルモノ多シ。貿易上ニ於テナルベク均衡ヲ保タシムルコトハ各国何レモ希望スル所ナリ。之レカ為メニ特別ノ經濟政策ヲ行フコトアリ。經濟上ニ於テ一ノ独立体ヲ得ントスルハ世界的貿易ノ發達セル今日ニ於テモ各国皆之レヲ希望セルモノナリ。即チ輸出入ノ均衡ヲ保ツコトナリ。殖民地ニ於テハ此目的ヲ遂クル為メニハ多クノ年月ヲ要スルモノナリ。殖民地ノ經濟

殖民地ノ經濟体ヲ見察スレバ其幼稚ナル時ニハ勿論輸入ハ輸出ヲ超過スルモノナリ。而シテ其輸出品ハ殖民地ノ資本トシテ固定スルモノモアリ。又殖民地ノ人民ノ食料ヲ供給シ或ハ其他ノ必要品ヲ供給スルモノナリ。始メハ工藝製作品ハ之レヲ母国ニ待タサルヲ得サルモノナリ。年月ヲ追フテ製產品ハ粗製品ヨリ加工品ト進ム。而シテ遂ニ貿易上ニ於テ、權衡ヲ保ツコトヲ得ルニ至ル故ニ殖民地ハ經濟上ヨリ觀察セバ或年限間ハ資本ノ注入地トシテ之レヲ是認セサルベカラズ。直チニ其報酬ヲ得ルコトハ難シ。往時ノ政治上、宗教上其他已ムヲ得サル原因ニ出デタル殖民地ハ報酬之レヲ論外ニ置キテ近代ノ殖民地ハ資本ニ豊富ナル土地ヨリ資本ヲ輸出シテ事業ヲ起スガ為メニ殖民地ヲ開クニ至ル近代ノ殖民地ハ經濟的殖民地ナル故ニ其貿易ノ如キハ全ク經

済の觀察ヲ之レニ對シテ與ヘザルベカラズ。

7、人口

殖民地ノ人口ノ増加ハ之ハ旧國ニ比シテ殊ニ著シキモノアリ。其原因ハ

1、殖民地ニハ壯年者ハ移住ス。移住者ノ年令ヲ正別〔ママ〕スレバ老齡ノモノヨリハ壯令者ノ多キコトハ何レノ殖民地モ同一ノコトナリ。

2、殖民地ニ於テ現在セル自然繁殖ノ外ニ移住者ノ増加シ來ルコトナリ。外來スル人口ノ増加スルコトナリ。之ヲ近代ノ歴史ニ徴スルニ英國ノ如キ獨乙ノ如キハ殖民の國ナリ。年々歳々数十萬ノ人口ヲ海外移住セシメツ、アリ。然レトモ其移住スルノ人口ハ本國ニ於テ自然ニ増加スル人口ノ數ヲ超過スルコトハ殆ント絶無ナリ狹隘ナル地方ヲトツテ其人口ノ出入ヲ測ル時ニハ或ハ出ヅルモノハ増殖スルモノヨリモ多キコトハ往々アリ。然シ一國ヲ平均スル時ハ出ツル所ノ人口ハ増ス所ノ人口ニ應ジテ遙カニ少キコトハ事實ト見テ差支ヘナシ。故ニ殖民地ハ人口増加ヲ起ル〔ママ〕所ノ自然ノ結果ナリトス。本國ノ絶對的人口ヲ dec シテ殖民地ヲ形成スト云フコトハ甚タ稀ナル事共ナリ。勿論往時ニ於テハ國民ヲ擧ゲテ他邦ニ移住スルノ例少ナカラズ。之レハ殖民地ニアラズシテ Migration ナリ。又時トシテハ Envation ナリ。然ラバ人口ノ増加ハ本國ニ於テ増ス所ノモノト敢テ異ナルモノナキヤト云フニ決シテ然ラズ。

殖民地ニ於テ境遇ノ新タニナリ食料ハ過多ニナリ身體ハ壯健トナリ前途ハ有望トナリ之等ノ精神ト及ビ健康（身體）上ニ於ケルノ變化ハ殖民地ノ人口ヲシテ繁殖ヲ多カラシムルノ原因タルコトハ疑ヒモナキコトナリ。即チ本國ニ於テ食物ハ缺乏シ生計ハ困難ニシテ身體ハ自然衰弱トナリ精神上常ニ慥々トシテ樂シマザルガ如キ境遇ニアルモノハ自然身體ノ發育不充分ニシテ人口ノ蕃殖上ニ自ラ影響アルモノナリ。之ヲ以テ其本國ニアルヨリハ殖民地ニ移住スル時ハ人口ノ蕃殖ハ速カナルコトハ推測スルニ難カラサルモノナリ。尚ホ觀察スベキ点ハ殖民地ニ於テ近代ハ世界ノ人口ヲ生スルコトハ何レ〔ママ〕國ニ於テモ見ルコトナリ。例令〔ママ〕世界ノ人口ヲラザルモ新血統ヲ生ズルコトハ事實ナリ。故ニ國民ニ自ラ元氣アリ。之等モ殖民地人口ヲシテ蕃殖速カナラシムルモノ、原因ノ一ナリ。米國ノ如キハ通例國民ノ數ノ一

倍スルハ二十五年ヲ以テス。

8, 殖民地ニ於ル富ノ増加

殖民地ニ於テ富実ノ増加ノ速カナルコトハ人口ノ増加ヨリ尚甚ダシ。資本ノ働キハ肥沃ナル土地ト相俟ツテ尤モ活潑ナル情況ナリ。土地ノ開発, 森林ノ利用, 礦物ノ探掘漁業ノ利益, 總テ殖民地ノ富源ヲ形成スルモノハ秩序の開発ヲ待タズシテ急速ノ進歩ヲ以テ利用セラル、ニ至ル。從テ工商業モ天然ノ富ノ利用ニ伴ナフテ勃興シ, 個人ノ富, 社会ノ進歩, 其先進國ニ於テ見ルコト不能ルモノヲ殖民地ニ於テ現出スルニ至ルコトナリ。先進國ニ在テハ起スベキノ事業少ク資本ノ報酬ハ從テ低廉ナルコトハ常ナルコトナリ。

殖民地ニ於テハ資本ノ活動速カナルガ為メニ其報酬ノ如キモノハ常時ノ標準ヲ以テ測度スルコト不能然ラズ如何ナル程度ニテ富実ノ進歩ハ急速ノ度合ヲ以テ進行スルヤト云フニ殖民地ノ状態異ナルニ從テ其期間ハ長短ノ差アルヲ免カレズ, 或ヒハ二十年ニシテ殆ント先進國ト其状態ヲ同ジウスルモノアリ。或ハ五十年ヲ要スルアリ。若クハ Century ヲ重ヌルモ尚ホ經濟的活動ノ状態ハ旧國ト異感 [ママ] ヲ呈スルアリ。土地ノ廣狹ニヨリ氣候ノ寒暖ニヨリ國民ノ氣性ニヨリ天然ノ富源ニヨル。米國ノ New England 諸洲ノ如キハ社会ノ文物凡テ歐洲ノ先進國ト異ナラズト凡其ノ後方ニ宏大無辺ナル新開ノ殖民地アリテ遙カニ太平洋ノ沿岸ニマテ其領土ヲ延長シ無限ノ富源ト無限ノ人口ヲ收容スルニ足ルカ為メニ經濟的活動ハ其刺戟ヲ受ケテ益々活潑トナリ富ノ発達ハ旧國ノ企テ及バザル所ナリ。今ナホ vigorous growth ヲ為シツ、アルモノト見テ可ナルコトナリ。

9) 殖民地ニ於ル地代 (rent) ノ高低

殖民地ニ於テハ地代ハ一般ニ低廉ナリ。蓋シ地代ハ土地ノ耕作ガ肥沃ナル所ヨリ漸次ニ瘦薄ノ土地ニ及ヒテ遂ニ耕作上ノ利益ニ差異ヲ生ズル所ヨリ起因スルモノナルコトハ經濟上ノ原則トシテ之レヲ認メラレル。然ラバ殖民地ニ於テ肥沃ナル土地ハ全テ耕作シ終ルニアラザレバ其地代ヲ見ルコトニ [ママ] 不能ト云フニ實際ノ情況ハ種々ノ異例ヲ起シテ必ズシモ經濟上ノ原則ヲ追フテ進行セルモノナラズ。而シテ地代ニ於テ高低ノ常ナク又土地ノ所有者ハ容易ニ其土地ヲ得テ敢テ資本ヲ注入シテ土地ノ成墾ノ為メニ幾多ノ辛苦ヲ

經テ之ニ對シテ相當ノ報酬ヲ得ルコトハ當然ノコトニ屬スト雖モ事實之ニ反對シテ一種ノ特權ヲ得タルカ爲メニ之レニ對シテ地代ヲ要求スルコトヲ得ルカ如キ種々ノ例ヲ殖民地ニ於テ見ルコトナリ。則チ土地ノ所有ヲ容易ニナシタル所以ハ地代ナラ「ママ」モノハ起ラサルヤト云フニ實際ニ於テハ米國ノ如キ自由ニ移住民ニ宅田ヲ交布「ママ」スルノ土地ニ於テモ又本道ノ如キ無償交附ヲナスノ土地ニ於テモ地主ト代耕者即チ小作人ナルモノハ並立ス。然レバ殖民地ノ土地ハ必ズシモ隨意者ヲシテ待テ開拓ヲナシウルモノニ非ズ。資本上ノ關係ヨリ地主モアリ。小作人モアリ相俟チテ耕開キナスコトナリ。然ラバ地代ナルモノハ自然ノ經濟上ノ結果ニテ資本ノ使用上ノ關係ト土地ノ供給上ノ關係ヨリ起ルモノニシテ殖民事業ノ盛ナル所ニ於テハ例令「ママ」交通ハ不便ニナリ凡テノ点ニ於テ不利ナルコトアルモ需要供給ノ点ヨリモ地代ハ遙カニ騰貴シテ既ニ土地ノ開キ人民ノ安住シテ凡テノ点ニ於テ便利ヲ備フルノ地方ヨリハ遙カニ地代ノ騰貴セルノ現象ヲ見ル。即チ札幌或ハ附近ノ地代ヨリハ上川其他ノ農業地方ニ於テ地代ノ高キカ所以ナリ。又地代ハ殖民地ヲ通シテ一種ノ標準ヲ取りテ其高低ヲ定ムルカ如キハ容易ニナシウベカラズ。地代ハ大ニ地方的ノモノナリ。地方ノ狀況ヲ酌量シテ定ムルコトヲ要スルモノナリ。然レトモ一般ノ趨勢ハ新開ノ土地ハ減ズルニ從テ地代ハ騰貴スルモノナリ。恰モ製作工芸品ハ技術ノ進歩スルニ從テ其ノ價ヒヲ低廉ナラシメ得ルモ有限ノ土地ト生産物需要ノ増加ハ地代ヲシテ自然ニ騰貴セシムルニ至ル。

10) 資本ノ利子

殖民地ニ於テ資本ハ如何ナル報酬ヲ得ルト云フニ恰モ地代ト反對ノ位置ニアリ。地代ハ始メハ低ク遂ニ騰貴ス。資本ノ利子ハ始メハ高ク遂ニ低下スル傾向ヲ有スルモノナリ。始メ利子ノ高キハ一ハ資本ノ欠乏ニヨルト一ハ需要ノ多キニヨル。資本ニ對スル利子ハ國ノ貧富ヲ示ス所ノ標準ナリ國ノ信用ヲ顯ハス所ノ標準ナリ。殖民地ニ於テ利子ノ高キハ需要ノ多キト供給ノ欠乏ハ其源泉ヲナスハ當然ナルカ其外ニ殖民地ニ於ケル一般ノ信用ノ欠乏ト事業ノ性質多クハ危険ナルコトモ亦利子ノ高キ源因ナリ。資本供給ノ本源ハ組織的機關ヲ用ヒルモノトセバ殖民地ニ取りテ幸福ナルモノナリ。然レトモ殖民地

ニ於テハ組織的金融機関ヨリモ寧ロ個人貸借ハ其多キヲ占ム。之ヲ以テ金利ノ高低ヲ一層甚ダシカラシムルモノナリ。又殖民地ニ於テハ資本ヲ要スルコトノ多キガ為メニ自ラ資本ヲ造ルコトハ甚ダ困難ニ属ス。故ニ産業ノ剩餘ハ貯金トシテ之ヲ事業上ニ用ヒルコトノ余地ハナシ。即チ新開ノ土地ニ於テハ剩餘資金ノ甚ダ缺乏ヲ告グレバナリ。之ニ資本ノ利子ヲシテ高カラシムル一原因ナリ。然レトモ殖民地ノ事業ハ進歩シテ富実ノ増加スルニ從ヒ資力ノ増殖ニ伴ヒ利子ハ漸次低落シテ殖民地ハ国ノ經濟ト世界ノ經濟トニ關係ヲ及ブルニ至ツテハ遂ニ金利モ中央ノ金融市場ニヨツテ支配セラレ從テ殖民地モ組織的金融機関ヲ用ヒ貯蓄制度ヲ利用スルニ至ル。

Plas 氏ノ説

530,000,000	Caucasien [以下, タイプ, ただし漢字を除く]
275,000,000	Europe
120,000,000	America, South America
rest	Asia
500,000,000	黄色人種
400,000,000	印度, 馬來人種
75,000,000	猶太
+ 100,000,000	劣等人種
1075,000,000	世界人種

Sir Giffen

1900

500,000,000	
80,000,000	United States themselves
135,000,000	Russia
55,000,000	Germany
55,000,000	United Kingdom
	Canada
	Australia
	S. Africa

45,000,000	Austro Hangali
40,000,000	France
32,000,000	Italy
25,000,000	Spain & Portugal
10,000,000	Scandinavian Country
10,000,000	Holland & Belgium
20,000,000	Other country

1800

170,000,000

1800

£5,000,000,000 [以下, 手書き]

如何程之レノ multiply シタルヤハ算数ノ外ナラン。

United states & Kingdom ニ於テハ 1800 ニテハ 20,000,000 ナラン。
century ノ間ニ 80,000,000 トナレリ。

Future population in 2000 A. D ニテハ

1,500,000,000 — 2,000,000,000 トナルラン。

11) 労働者ノ賃銀

一般ニ高キコトハ当然ナリ。殖民地ニ於テ欠乏セルモノハ資本ト労働者トナリ。労働者ノ供給ニシテ不足ナルヨリ賃銀ノ高キコト, 労働者ノ技芸ノ進歩セルヨリ高キノト二様アリト雖モ殖民地ニ於テ賃銀ノ高キハ蓋シ前者ニ属ス。賃銀ノ高キカ為メニ労働者ノ生活ハ一般ニ高ク又独立心ニモ富ム自然ノ結果トシテ労働者社会ニ人口ノ殖繁 [ママ] モ著シキ事実ナリ。米国ニ於テ労働賃銀ノ尤モ高キ処ニ於テハ西部地方ナリ。労働者ノ多クハ Ireland, German, Italy, Hungary 等ノ移住者ニシテ彼等ハ長ク労働者トシテ職業ヲ取ルニ非ズシテ独立ノ資本ヲ得ル為ニ労働者タルモノ多シ故ニ彼等ハ賃銀ヲ高クシテナルベク支那人, 日本人或ハ異人種ノ出稼労働者ヲ入ルコトヲ好マザルモノナリ。彼等生計ノ程度ノ, 到底低廉ナル賃銀ヲ以テ生活スルコト不能ルモノナルヲ以テ, 出稼労働者ヲ排斥スルコトヲ以テ労働ノ神聖ヲ維持スルモ

ノトナス。

殖民地ノミナラズ、労働ノ賃銀ハ自然ニ騰貴スル傾向アリ労働ノ性質ハ知能のトナリカヲ勞スル業務ハ或ハ自然力ニ或ハ動物力ヲ用ヒルカ為メニ労働者ハ損量ヲ研究シテ高等ナル業務ヲトルコトナルハ当然ナリ。從來ノ如ク殖民地ニ於テ低廉ナル賃銀殊ニ劣等種族ノ労働者（奴隸，隸屬者）ヲ用ヒテ殖民事業ヲ起スハ益々困難トナル故ニ殖民事業ハ労働賃銀ヲ省キテ資本ノカヲ以テ事業ヲ起スコトヲ企テザルベカラズ。

12 殖民地ニ於テ一著シキ經濟上ノ特徴ハ最富者ヲ生スルコトノ多キコトナリ。蓋シ新開ノ土地ニ於テハ起ス新事業多クシテ所以遺利多キガタメニ少シク事業上ニ機敏ノ働キヲナスモノ、又危険ヲ犯シテ大胆ナル事業ヲ企ツルモノ又資本力ニ豊裕ナルモノハ新開ノ地ニ於テ一代ニシテ巨万ノ富ヲ作ルコトハ甚ダ難キコトニアラズ。或ハ鉱山ニ或ハ鉄道ニ或ハ森林業ニ製造業ニ農牧業ニ利益ヲ與フル所ノモノハ多キコトナリ。此ヲ以テ新開地ノ創業者(Pioneer)ナル者ハ一世一代ニシテ巨大ナル富ヲ造リ遂ニ其地方ノ進歩スルニ從テ名望家トナリ政治家トナリ権力ト名誉トヲ併セ有スルモノハ少ナカラサルモノナリ。

13 信用ノ程度

信用ノ程度ハ甚タ薄弱ナルモノナリ。殊ニ対人信用ハ殖民地ニテ之レヲ得ルコトハ至難ニ属ス。人ノ品性ト名誉トハ未ダ全ク成立セラレザルヲ以テナリ。況ンヤ対物信用ニ於テモ價格ノ變動ハ常ナキガ為メ、之レヲ抵当トシテ貸出シヲナスコトヲ好ムモノハ少ナル故貸出資金ハ其ノ危険ニ見スルカ為メニ高率ノ利子ヲ科セザルヲ得ザルモノナリ。銀行制度ノ殖民地ニ於テ其ノ實際ノ働キ明ニスルコトヲ得ルニ至ルハ稍々殖民地ノ進歩セルノ後ニアラザレバ不可能。多クハ個人対借ニ依テ資金ノ欠乏ヲ補フ故ニ高利貸シヲ生ズ。東西何レノ地ニ於テモ免レル能ハスシテ彼等ハ互ノ用ヲナスモノナリ。

14) 殖民地ニ於ル投機的事業

新開地ノ土地ニハ凡テノ事業ハ投機のニ見ゆ。危険ノ性質ヲ若干帶ブルモ

ノナリ。危険ヲ犯サレバ希望ヲ現出スル事不能。需要供給ノ大勢ヲ察シ事業上ノ資本ヲ注入シ近キ将来ニ於テ其事業ヨリ報酬ヲ得ントスルコトヲ希望スルコトハ必ズシモ之レヲ投機的事業ト称スベカラズ。[原文空白]現物以外ニ單ニ希望ヲ有シテ取引賣買ヲナスコトヲ眞ノ投機ト称スルナリ。所以将来ノ需要ヲ予案シテ有利的ノ事業ヲ企ツルコトハ殖民地ニ於テ之レヲ獎勵シテ可ナルコトナリ。安全ナル事業ハ利益薄ク危険ナル要素ヲ含ム事業ハ利益多シ。然シ往々殖民地ニハ詐[原文空白]の事業多シ。

眞正ノ商業上ノ取引ハ殖民地ニ於テ之レヲ獎勵セザレバナラヌモノナリ。其間詐欺ノ行為ノ往々アルハ殖民地ニ於テ免カルベカラザル通弊ナリ。殖民地ニ於テ可成商工業ヲ権束セズシテ発達セシムベシ。今日ハ往時ノ如キ[原文空白]ヲナス時ニアラズ。

殖民地政府ノ組織

殖民歴史上ニテ所以 colonising power 殖民的強國ハ始メハ Spain, Portugal 及ビ Holland ノ三國ハ印度諸島, 南米及ビ東洋殖民地ヲ建設セリ。之レニ次ク佛國ハ十七八世紀間殖民事業ニカヲ致シ最後ニ英国ノ出テ漸次諸國ノ殖民地ヲ或ハ侵襲シ或ハ讓與ヲ受ケ, 或ヒハ買収シテ遂ニ世界ニ於テ最大ノ殖民國トナリヌ。

19世紀ニ及ンデ露國ハ盛ンニ Siberia 及ビ滿洲ニ殖民事業ヲ起シ, German ニテハ Africa 及ビ東洋ニ新ニ殖民地ヲ建設スルニ至ル。而シテ各強國ノ殖民地ヲ統御スルハ各其國ノ政体文物ノ異同アリテ, 殖民政策ニ直チニ影響ヲ及ボス。然レトモ英國ハ既往三百年間殖民地ヲ統御スルコトニ最モ經驗ヲ積ミ, 尤モ其宜シキヲ得タルナリ。将来殖民事業ヲ起ス國ノ為メニ好模範ヲ与フ。宏大ナル殖民地ヲ統御スルコト Canada, Australia ニ於ル如キ商業地ヲ支配スルコト香港, 亞典ノ如キ共用的殖民地ヲ支配スルコト Malta, Zibralthal ニ於ルガ如キ各殖民地ノ種類ニ從ヒ政府ノ組織ヲ異ニスル。而モ本國政府ノ殖民省ニ於テ萬里ノ絶域ニアル殖民地ヲ統御スル恰モ其國內ニ於ケル洲都ヲ統御スルカ如ク自治ノ上ニ又ハ統裁ノ上ニ於テ其宜敷キヲ得。

殖民地ノ種類ヲ分チテ之ヲ三種トナス。

- 1, Chartered Colony 特許ヲ受ケテキルモノ
- 2, Proprietary Colony 大地主ノ殖民
- 3, Crown Colony 王領殖民

之ノ三種ニヨリテ政府ニテハ直管ト自治トニ分タル。

現今ニ於テモ殖民地ノ政治上ノ組織ニヨツテ殖民省ニ於テ之ヲ三種ニ分ツ。

- 1, 王領殖民地 Crown Colony ニシテ国王ハ立法ノ全権ヲ有ス。
其行政ハ殖民大臣ノ監督ヲ受ケテ知事ハ之レヲ執行スル。(Ceylon)
- 2, 殖民地ニシテ殖民地議會ヲ有スルモノ。然レトモ責任政府ヲ有セズ。
(responsible government ナシ) 故ニ国王ハ立法上ニ於テハ不認可權ヲ持ツノ外、何等權能ヲ行フコト不能。併シ殖民地ノ管理ハ凡テ本国政府ニヨツテ任命セラル。
- 3, 殖民地ニシテ議會ヲ有シ併セテ責任内閣ヲ有スル政府ヲ立ツルモノナリ。
此殖民地ニ於テハ国王ハ立法上ニ於テ不認可權ヲ有スレトモ、知事ヲ除クノ外ハ責任アル内閣ノ任命スル所ニシテ國王ハ之ニ関與スルコトナシ。(Canada)

其例ヲアグレバ Ceylon ハ第一種

Barbedore ハ第二種

Canada ハ第三種

近年英国ノ政治問題ニ於テ Colonial confederation 及ビ Imperial Confederation (帝国連合) ナル問題起レリ。前者ハ既ニ Canada 殖民地ノ連合ヲ以テ其实例ヲ與ヘ而モ本年ニ至ツテ濠洲ニ於ル各殖民地ノ連合ヲ以テ殆ント其目的ヲ遂ゲ、後者ハ英国ニ於テ敵國外患アルトキニ Africa ノ遠征 (Lansver ノ役) 又ハ北清事変ノ如キ大兵ノ出征ヲ用ヒルトキ殖民地ハ其本国ニ向ツテ援勢ヲ與ヘ、増々帝国ノ國事ニ対シテ密接ニシテ早晚或ハ英国ニ向ツテ合同シテ同一ノ代議政体ノ下ニ立ツニ至ルカ然ラズンバ濠洲又ハ Canada ノ如キハ独立ノ國タルニ至ルモ計ルベカラザルコトナリ。

〔完〕

[付記] 本稿は、プロジェクト研究「植民論にかんする文献調査・研究」の成果の一部である。史料の復刻にあたっては、日本史学専攻修士課程学生、須田誠氏に原稿作成に協力していただいた。同氏に謝意を表したい。